

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 日出総合 高等学校	
学校教育目標	家庭や地域と協働し、一人一人の個性の伸長を図るとともに、豊かな人間性と社会性を備え、かつ学校・郷土に誇りを持ち、社会の発展に貢献できる人材の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・保護者の意見を交えたSWOT分析を職員研修で実施するなど組織的取組として展開している。 ・校訓ベースのスクール・ポリシーを作成するなど3年間を貫いた生徒育成イメージが全職員で共有されている。	・各学科の特色を生かした教育活動を展開し、この地域唯一の専門学科・総合学科設置高校として、近隣事業所や地域住民等から認められる学校づくりに邁進し、粘り強く挑戦できる精神と新たな価値観を生み出す創造力を持った生徒を育成していく。 ・SWOT分析から得られた本校の強み、弱みを精査し、スクール・ポリシーを明文化した。学校教育目標を達成するために、管理職と職員とのさらなる連携を深め、風通しの良い職場づくりをとおして、目標達成に向けたベクトル合わせを行っていく。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・学校評価(中間評価)の検証(指標、改善策等)や学校関係者評価が適切に行われている。 ・校務分掌の見直しなど学校経営ビジョンの実現に向けた組織的な取り組みとなっている。	・「重点目標」達成のために、保護者アンケート等の外部評価や生徒の授業及び生活アンケートを計画的に実施し、その結果から取り組むべき事項を焦点化し、改善をすすめる。 ・次年度に向けて校務分掌を見直した。その見直しに対し、効率的に運用されているか評価するために各種会議を定期的に行うこと、短期のPDCAを回しながら、着実に本校の課題が解決できるようシステムを構築していく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・良い。 ・「HIJI SO GOOD!! プロジェクト」は目的と各種取組が系統的に整理され、地域・家庭にも共有されている。 ・校外での「学びの場」として、防災教育、出前授業、農産品販売など積極的に進んでいる点は評価できる。 ・HPの更新頻度、情報発信に対する意識とも高く、成果を上げている。	・ホームページやSNSの更新、「HIJISO GOODニュース(広報誌)」を計画的に発行した。次年度からホームページが新たなフォームに変わることから、本校の魅力を正確かつ迅速に伝えられるよう発信力を高めていきたい。 ・各学科の強みを生かして地域への活動に取り組むことで生徒自身がその行動に自信を持ち、大いに達成感を得られるよう内容の見直しも含めて改善に取り組む。また、その活動をホームページやSNSで公開することで保護者に周知し、「開かれた学校」であることの意識を高めた。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・合科的授業は、今年度の実践もあり、次年度以降の計画も具体的に示されている点は高く評価できる。 ・生徒の授業評価アンケートにおいては8項目全てで1回目の評価を上回っている。 ・「目標の提示」や「対話的な授業」の工夫がなされており、授業改善の取組が進んでいる。 ・3学科併設の強みを活かし、生徒のニーズを反映させた「日出総合ならではの」学びの充実を期待したい。	・授業改善検討委員会を定期的開催し、各教科の授業改善への意識向上を図るとともに合教科授業の本格的な実施に向けて、課題と改善策等を共有し、計画的に実施できるよう取り組む。 ・次年度は全学年で観点別評価に完全移行することから、「指導と評価の一体化」等、学習評価についてさらなる研修等で「質」の向上に努めていく。 ・職員、生徒に整備された一人一台端末を活用し、「深い学び」につながる授業を計画し、授業研究会や研修会を教科や学科等の小さな単位でPDCAサイクルを回し、改善に向けて取り組みを進める。 ・互見授業による参観シートや生徒からの授業アンケートは、授業を客観的に見る指標として効果的である。今後も互見授業を継続し、教科・学科内での意見交換会を行う等、充実させていく。 ・生徒が様々な状況に対し、課題意識を持ち、その解決に向けて考える力を身に付けられるよう、合教科授業等の教科横断的な取り組みから、探究活動や課題研究につなげられるよう計画的に取り組む。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・良い。 ・学年が上がるごとに生徒の満足度、達成感ともに高くなっている。 ・生徒の実態に応じたクラス編成等、人間関係構築に配慮がなされている。 ・学校行事が上級生の姿から学ぶ貴重な場になっており、生徒の人間的な成長の機会ともなっている。 ・不登校対策は、クラス担任、養護教諭、スクールカウンセラーが連携し組織的な支援体制が構築されている。 ・いじめ問題への対応は、在校生の特性等を考慮しながら丁寧な対応を続けている。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を充実させ、生徒のみならず保護者の困りをサポートする体制を充実させる。また、面接週間を設定することで生徒と向き合う時間を確保していく。 ・年3回実施しているいじめアンケートの結果から、いじめ対策委員会を迅速に開催し、いじめの早期発見、早期解決につなげられるよう取り組む。また、各種講演会等の機会を設け、内面的な心のたくましさや醸成する「心の教育」を充実させていく。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・39メールの活用が生徒の出席確認(連絡)や安全管理、保護者とのコミュニケーションツールにもなっている。 ・近隣企業と連携した防災教育の展開にも期待したい。	・生徒の安全管理については、授業、部活動中の事故等の発生時に迅速な対応ができるよう連絡体制を再確認する。また、保護者との信頼関係を構築し、次年度も生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを進めていく。 ・校内の「防災避難訓練」では、職員、生徒が緊張感を持って訓練に取り組めるよう実施方法を見直していきたい。また、防災教育の充実に向けて、近隣企業や町と連携を図り、生徒が探究活動等を活用し、主体的に考える機会を設けたい。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・分掌を再構築することで、職員間の負担の平均化を図る等、管理職のマネジメントが効果的に機能している。 ・時間外勤務実績も前年比減少傾向にあり、超勤縮減が効果的に行われていると思われる。 ・自動採点システム「百問繚乱」の活用等、さらなる負担軽減や働き方改革が進むことを期待したい。 ・39メールの活用により教職員の負担軽減が図られている。	・分掌の再構築により業務負担が平均化されているか分掌主任と成果を検証する機会を設け、改善に取り組む。 ・客観的なデータとしてタイムレコーダーにより勤務時間を管理し、関係職員に声掛けすることで月別平均超過勤務時間が減少している。また、年休を取得しやすい職場環境となるよう改善し、働き方改革を推進したい。 ・タブレット端末を円滑に活用できるように職員研修を計画的に開催する。また、ICT教育サポーターとの連携により、そのスキルを高めることで教材研究等に係る業務軽減につなげる。
	学校課題の解決に向けた取組等	○HIJI SO GOOD!! プロジェクト(学校の学校魅力化・特色化に向けた地域協働の取り組みの総称。教職員・生徒共通の合言葉)	・「HIJI SO GOOD!! プロジェクト」が全教職員、生徒の合言葉となり高く評価できる。 ・生徒が自分自身や学校、郷土に誇りと自信を持つことができるよう組織的な取組を継続・発展させている。 ・分掌機構の見直しにより、分掌業務の役割と分担が明確になる等、組織的に取り組む体制が整いつつある。	・コロナ禍が明け、多くの行事が以前の内容に戻ってきた。特に地域との連携を重要視する取り組みについては、次年度の「HIJI SO GOOD!! プロジェクト」で内容を検討し、生徒と共に実践していきたい。 ・地域に向けた取り組みを教職員からの働きかけでなく、生徒会執行部や関係の専門委員会が自主的に企画・運営する等、自らの力で活動できるようシステムを構築し、郷土愛の醸成を図る。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色、地域や保護者のニーズを踏まえた明確な学校経営ビジョンが提示されている。 ・ビジョン達成に向けた「分掌組織の見直し」「地域連携の充実」「総合選択制の充実」「課題研究・探究学習の位置づけ」「授業改善」が管理職のリーダーシップの下、組織的に進められている。 ・取組の成果により学校に対する地域や保護者の期待も高まりつつある。今後、地域に根ざした専門学科と総合学科を併設したコンパクトハイスクールのモデルとしての発展を期待したい。 ・学校に対処する過去のイメージにはある程度の時間とエネルギーが必要であるが、地域で活躍する生徒の姿を効果的に発信し、イメージの刷新が進むことを期待したい。 ・学校を変えようと積極的に取り組んでいる指導教諭や若手教諭のエネルギーを突破口に、学校改善の動きが活発化することを期待している。 ・日出総合高校は「改善力が高い学校」という印象を受けた。今後も一層の充実・発展を期待したい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョンを全職員で共有し、生徒個々に寄り添い、3年間を見通した教育活動となるよう組織的に取り組む。 ・新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、学校生活もこれまでの制限から解放され、以前の教育活動に戻ってきた。その状況から学習面や特別活動で十分に評価できる成果を上げることができたことより、さらに見直しを図り、学校行事を充実させたい。 ・今年度は本校の魅力発信することを目的に、近隣中学校での出前授業の実施、広報誌やホームページ、SNSを随時更新し、生徒の活躍を適切に発信することができたため次年度も継続したい。 ・指導教諭を中心に年間3回(1回は人権教育)の授業改善研究会を開催できたことで、教員一人一人のスキルアップにつながった。その結果、生徒の授業アンケートにおいて、「生徒対応」、「興味・関心」、「満足度」がいずれも目標値を超えており、次年度も生徒がしっかりと授業に取り組めるよう教職一同、共通認識をもって取り組む。 ・職員業務負担の改善に向けて、分掌機構を見直した結果、業務の明確化、業務負担の均一化につなげることが期待できる。次年度の各分掌の取組から、さらに業務負担の削減が可能であるか検証し、改善に向けて取り組む。また、部活動においても、生徒のパフォーマンス向上と職員の業務負担が過度にならないよう計画的に休養日を設け、負担軽減につなげたい。 			